

巻頭言

1993年の八月

林 文子

八月下旬になって、ようやく夏本番を迎えた。雷鳴を轟かせて地面に叩きつけるようなどしゃぶりのわか雨のあと、すかっと晴れ上がった北東の空に、遠くアルプス連峰から、もこもこと湧き上がる入道雲の大群を仰ぎみる汗ばむ夏の盛りはなく、今年は月始めから北海道南西沖地震津波災害、7号台風による鹿児島地方を中心とする水害・土砂崩れと大きな災害が続いた。それに月末には東日本を襲った11号台風が都心の地下鉄を水浸しにして過ぎ去った。

1993年の八月は日本列島の自然災害ではじまり終わった。

私達は戦後48年間、八月は国を挙げて広島・長崎被爆犠牲者の慰霊、アジア太平洋戦争の戦争犠牲者の追悼とともに世界平和を祈願してきた。一人一人が反省と自戒の念で心を痛めてきた。そして戦争を知らない世代への平和のメッセージは戦中・戦後の苦難の時代を省み、何よりも隣人を愛する人間教育のなかで、史実を曲げないよう伝えたいものだと思ってきた。

私達人生の先達の務めは、人間愛を育てるなかでおのずと平和を希求する心が生まれるように若い世代を慈しみ育てることにあると思う。

(健康文化振興財団理事長)